

効く！『脳トレ』問題 第2回

第3問 「注意力」を磨く【「おかしな言葉」は？】

解答

むかしむかし、あるむらに、こころのやさしい
うらしまたろうという、わかものがいました。

うらしまさんが、うみべをとおりかかると、こどもたちが
おおきなかめを、つか(えま)ていました。

答え まえ

そばによってみると、こどもたちが
みんなでかめをいじめています。

「おやおや、かわいそうに。にがしておやりよ」

「いやだよ。おらたちが、やっとなつか(えま)たんだもの。

答え まえ

どう(よし)うと、おらたちのかってだろ」

答え しょ

みると、かめはなみだを、はらはらとこ(しば)ながら、
うらしまさんをみつめています。

答え ぼし

うらしまさんは、おかねをとりだすと、
こどもたちにさしだしていいました。

「それでは、このおかねをあげるから、
おじさんにかめをうっておくれ」

「うん、それならいいよ」

こうしてうらしまさんは、こどもたちから、かめをうけとると、

「だいじ(うよ)ぶかい？ もう、つかまるんじゃないよ」

答え よう

と、かめをそっと、うみのなかへにがしてやりました。

すらすらと読めたら、逆に要注意です。文章には定型やリズムがあり、次に来る文言を予想してしまいがち。

そこに似たような字やフレーズが来ると、思い込みで読んでしまう危険性が高まるのです。それだけに「注意力」も薄まり、間違っても気がつかないかもしれません。この問題の場はかなり作為的な文字の並びになっていますが、実生活でも思い込みで読んでいないか、注意してみる必要はありそうです。

この問題は朝田隆著『効く！「脳トレ」ブック』（三笠書房刊）から抜粋して出題しています。
※個人でお楽しみいただく範囲でプリントアウトが可能です。

©Takashi Asada

本ページの全部または一部を非営利目的かつ個人的な使用の範囲を超えて無断で複製・複写（個人的な使用の範囲を超えた数量の複製・複写を含む）、転載、転用、頒布、改変、加工などすることは、著作権法上の例外を除き、禁止いたします。